

アメリカと日本の科学機関の環境コミュニケーションにおいてボランティア が果たす役割—事例研究に基づいて

Monica Paola PARADA LIZANO

キーワード：ボランティアリズム、環境コミュニケーション、ボランティアプログラムの運営

1. 研究の背景と目的

ボランティアリズムは、個人やコミュニティもしくは社会全体の福祉のために時間と資源を奉仕することであり、自由に、かつ金銭的な利益を期待せずに行われる。ボランティア活動は従事者の健康や自信を増進させ、コミュニティの繋がりを促進し、社会的ネットワークを創造する。組織において、ボランティア活動はコストの削減を助け、より高次のコミュニティの参与を促進する。また、科学機関や環境機関においては、ボランティアはしばしば機関とコミュニティの架橋となったり、環境コミュニケーションの主要な経路の一つとなったりする。この論文では、アメリカにある Mote 海洋研究所と水族館のケーススタディに焦点をあてることで、環境コミュニケーションにおけるボランティアの役割と科学環境機関におけるボランティアプログラムの管理について調査した結果を述べる。また、日米両国のボランティアプログラムの管理方式の比較という観点を提供するために、日本における科学機関でのボランティアプログラムの調査も行った。

2. 研究方法

Mote 海洋研究所と水族館において、異なる部署の 115 人のボランティアに対面とオンラインでの調査を行った。この調査の目的はボランティアとその活動の特徴を把握するための情報を獲得することと、ボランティアプログラムの管理についてより多くのことを学ぶことである。これらの調査から得られた情報はスタッフへのインタビューに追加した。また、Mote と同じ特徴を持つ 22 の日本の科学機関で、ボランティアを事業に従事させているかどうかを明らかにするため、またボランティアの管理方式を学ぶための調査を行った。

3. 結果と結論

結果として、Mote と日本の機関でのボランティアプログラムにおいて、高齢者(65 歳以上)の高い参加率がみられた。Mote で働く上でのボランティアのモチベーションは、科学的な興味や海洋環境への愛、そして利他主義と結びついていた。ボランティアは Mote での仕事に高い満足を示したが、調査はプログラムの改善が必要な側面も明らかにした。プログラムの運営と管理の不満、継続的なボランティアのトレーニングと評価の欠如、そしてスタッフとボランティアがふれあう機会の欠如である。日本での調査と現場視察では、いくつかのボランティア管理方式において Mote に適用可能で有用であろう情報を得ることができた。情報の中には、来場者への教育的活動の発展と実施、ボランティアの継続的なトレーニングと評価、日々の活動におけるスタッフとボランティアの参加といった、特にボランティアの高い責任感と参加率に関係しているものもあった。